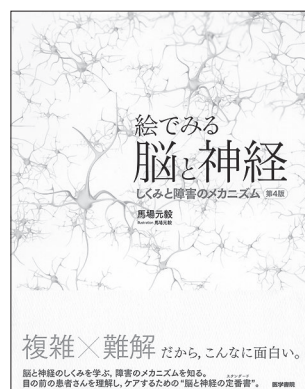


『絵でみる脳と神経

しくみと障害のメカニズム 第4版』

大胆なイラストで
難解な世界を切り拓く著：馬場元毅／定価：本体 2,800 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657

本書は医学書院のJJN ブックスとして1991年に初版が上梓されて以来、2001年に第2版、2009年に第3版、そして2017年12月にはJJNから離れた書籍として第4版が出版された。実に、四半世紀を超えて愛読されている書籍であり、本書に導かれて脳神経を学んだ医療者は多く、その意味から医療の世界への貢献は計り知れない。

私も本書に導かれた1人である。1987年ごろから脳卒中後の嚥下障害を課題として研究に取り組み始め、正常の機能から嚥下障害のメカニズムを理解しようとした折に、偶然に出会ったのが本書であった。それは衝撃的であった。とにかくわかりやすい。脳と神経の複雑なしくみの理解は一般的に難しいが、本書では目的にそって情報が精選されたイラストを中心として、視覚的に構造と機能が説明されて、障害のメカニズムが表現されている。第3版では「摂食・嚥下障害」「認知症」が追加され、この第4版ではこれまでのコンセプトを引き継ぎながら、第2章の障害のメカニズムで「てんかん」「高次脳機能障害」が追加された。

本書の特長は書籍名が表すように、「絵でみる」にある。これらの絵は著者である馬場元毅氏のデッサンであり、絵の横に小さく“M. Baba”のサインを見つけることができる。馬場氏は長年脳外科医として活躍され、手術記録にはイラストを多用してこれたと聞き及んでいる。その実績にも

とづく精緻なデッサン力に加えて、病態を表す大胆なイラスト構成力が本書の魅力を形作っている。これらのイラストと項で整理された端的な説明によって、脳と神経の障害のメカニズムの世界に導かれ、読み手の理解が深まっていく。

「第1章 中枢神経系のしくみ」では、第3版の「脳脊髄液循環」が「脳脊髄液の動き(動態)」に表現が修正された。近年の研究成果によって、循環する概念が覆されて「攪拌されながら動いている」と表現され、体リンパ系への吸収路の存在がイラストにも加わった。「第2章 障害のメカニズム」では、特に「認知症」「脳血管障害」「排尿障害」の項において、新たな知見が導入されて内容が整理された。摂食嚥下障害とそれに関連する脳神経についても内容が加筆されている。そして、要所ごとに「NOTE」の欄が配置されて、重要項目が平易な短い文章で説明され、これが第4版ではさらに充実した。また、随所にちりばめられた馬場氏の遊び心あふれるイラストも楽しむことができる。マイケル・ジャクソンのムーンウォークのイラストも健在であった。

さて、本書を読むと、脳と神経に関するしくみと障害のメカニズムが実によくわかる。これがわかると臨床場面での脳神経系の身体診査によって病態を推論することができる。是非とも手に取ることをお勧めしたい。